

巻頭言；自然環境調査報告書第 10 集にあたって

堀井 達夫

(トトロのふるさと基金 調査部会)

キーワード：狭山丘陵；トトロのふるさと基金；トラスト地の取得

2012 年度は、多くの人々が日本を見つめ直す年となった。2011 年 3 月 11 日に起きた東日本大震災は、今なおその爪痕を大きく残しているが、様々なことに気付かせてくれるきっかけともなった。震災復興のスローガンとなった「絆」は、「結びつき」の意味を持つ言葉であり、人々が人とのつながりや地域とのつながりの重要性について再認識したのではないかと感じている。

そして、トトロのふるさと基金の活動においても「絆」は広く、深く、結びついてきている。2011 年 10 月の土地の無償寄付（トトロの森 15 号地）に続き、2012 年 3 月にも土地（トトロの森 16 号地）の無償寄付をいただいた。同年 6 月にも複数の地権者からの土地の無償寄付によってトトロの森 17 号地を誕生させることができた。さらに同年 10 月には、トトロの森 18 号地を取得し、2013 年 2 月末現在でトラスト地の合計は 18 ヶ所になった。多くの方々の支援・協力の「絆」によって、トラスト地の取得は今も継続して実現し続けている。この「絆」に応えていくために、今後も調査部会としての役割を一つ一つ果たしていきたいと考えている。

この第 10 集では、まず川越がトトロの森 15 号地と 16 号地の植生調査結果をまとめ、今後の管理方針の提言を行う。昨年度に引き続き、土壌硬度・斜度・pH の測定も行って環境条件の評価を行なった。

今年で復田 3 年目となる北野の谷戸の自然環境調査では、関口が水生動物調査について報告し、湧水の有害物質については昨年度と同様に北浦が報告する。今集では新たに千代田による北野の谷戸周辺に生息する昆虫相についての報告が加わった。千代田は、北野の谷戸の里山再生ボランティアである「北野の谷戸の芽会」に参加しているボランティアの一人であり、かつ現役の中学生でもある。このような新たな立場からの投稿は大いに歓迎であり、今後もボランティアや学生など、狭山丘陵に関わる様々な方々からの投稿の継続を切に願うものである。

さいたま緑の森博物館 2 期分（所沢市域分）は平成 25 年度の散策路の開設に向け、管理作業を行うことになり、その作業に際しトトロのふるさと基金が保存すべき植物について調査を行い、マーキングすることとなった。そのマーキングについてのまとめを堀井・横山が報告する。

最後に、クロスケの家で実施した夜間生物調査については、当麻が昆虫類を対象としたライトトラップ調査の結果、石川が小型哺乳類を対象としたシャーメントラップ調査の結果、横山が夜間生物調査実施の意義と主に中型哺乳類を対象としたセンサーカメラ調査の結果をそれぞれ報告する。

謝辞

掲載した調査のそれぞれを多くのボランティアの協力によって実施することができた。また、

北野の谷戸の有害物質調査や三ヶ島湿地での調査、夜間生物調査、さいたま緑の森博物館 2 期分マーキング調査においては、早稲田大学自然環境調査室の大堀聰氏に多大なるご支援・ご協力をいただいた。この場を借り、深く感謝申し上げます。